



# 科学の眼

まなこ

発行: 姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話: 079-267-3961)  
<http://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

## 生物シリーズ

生きた農業

# ナミテントウ

*Harmonia axyridis*

姫路科学館 学芸・普及担当 小林将人

今年(けいちっ)は3月5日が二十四節気の一つ「啓蟄」でした。啓蟄とは、地中で冬ごもりをしていた虫たちが目覚める日とされています。しかし、虫たちが活動を始めるのは、一日の平均気温が10℃を超えるようになってからなので、実際には今からが虫たちが活動を始める季節です。今回は、春にいち早く現れる「ナミテントウ」を紹介します。

### ■ナミテントウってどんな虫？

ナミテントウは、コウチュウ目テントウムシ科の昆虫で、一般的に「テントウムシ」と呼ばれる昆虫です。卵→幼虫→<sup>さなぎ</sup>蛹→成虫と変化する完全変態の昆虫です。

成虫は、交尾を終えると木の枝や幹などに数十個まとめて卵を産み付けます。卵は、黄色で約1.5mmの細長い形をしています。(写真1) 3, 4日でふ化し、黒色の幼虫となります。幼虫のおしりは、吸盤のようにになっているため、葉の裏側でも落ちずにくっついてすることができます。黒色の幼虫は、3回脱皮を繰り返し、腹部の側面に橙色の模様をつけた4令幼虫になります。(写真2)

ナミテントウの蛹(写真3)は、腹部の先で木の幹などにくっついていますが、アリなどの敵の気配を感じると、ピクッと体を持ち上げるようにして動きます。

1週間ほど経つと、蛹から羽化します。羽化したばかりの成虫は、きれいな黄色をしています。が、<sup>はね</sup>翅が固まるにつれて、個々に違う模様が出てきます。



写真1 卵



写真2 4令幼虫

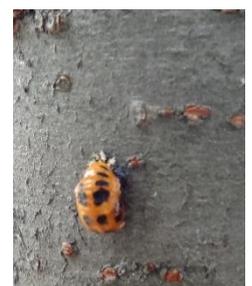


写真3 蛹

## ■ナミテントウの紋

赤地に7つの黒い紋があるナナホシテントウと違って、ナミテントウの紋は様々な種類があります。大きく分けて4種類のタイプに分かれます。

- ①二紋型・・・黒地に赤い紋が2つ（写真4）
- ②四紋型・・・黒地に赤い紋が4つ（写真5）
- ③斑型・・・黒地に赤い紋がたくさん（写真6）
- ④紅型・・・赤地に黒い紋（写真7）

紋の出かたは、遺伝子の組み合わせによって決まり、人間の血液型と同じように、同じ成虫が産んだ卵から育ったとしてもそれぞれ違ったタイプの成虫に育つこともあります。



写真4 二紋型



写真5 四紋型



写真6 斑型



写真7 紅型

## ■越冬

ナミテントウは、春になると早くから見つけることができます。それは、成虫で越冬しているために気温が上がってくると、活動を始めるからです。成虫は、石の割れ目や壁の隅などに集まり、集団で越冬します。（写真8）集団で身を寄せ合うことで寒さをしのいでいます。



写真8 壁の隅で集団越冬する様子

## ■生きた農薬

アブラムシは、植物の新芽や若葉などに寄生して汁を吸います。そのことで、植物を弱らせたり、ウイルス病を媒介したりして農作物に被害を与えます。

ナミテントウは成虫も幼虫もアブラムシなどを餌としています。幼虫時代には、一匹で数百匹のアブラムシを食べると言われています。ですから、生きた農薬として利用されています。しかし、ナミテントウは、飛翔して畑から離れていってしまうことが生きた農薬としての欠点でした。名古屋大学が2006年のノーベル賞の対象となったRNA干渉法を利用して翅を小さくして「飛べないテントウムシ」を人工的に作り出しました。この方法は、遺伝子の組み換えではないために野外に放しても生態系への影響を及ぼさないの、注目されているようです。

春が近づき暖かくなってくると、いろいろな昆虫が活動を始めます。赤やオレンジ、黒のカラフルな色で、愛らしい形をした小さなナミテントウ。これからの農作物の豊かな実りを支えていくであろうナミテントウをぜひ、探してみてください。

